新古今和歌集 三

静嘉堂文庫

新古今和歌集卷第十一

恋歌一

ふるさとのみみくやの屋ちんつらさやうるまの山の景物を　よみ人しらず

吉野のみわとやまとうみ潮ふきまつ神代にはのこれ　人麿

長哭乃山四りる庵よりくうひろ下ろれつて我こゝろくハ

石上布留の山の山のはゝ木とんのうちよ恋やうん　在原業平朝臣

女ゝつゝけ

長日野のうちは衣きのゝれみくれわたるれと

中務文衣ゝはつゝけ　延喜御製

長はるこよんまわるね山ゆくうんとかりの物先つる

静嘉堂文庫

みちのくにまかりてかうろく保元のころ　中納言為忠
年号文家奇合
うのたちやまをやよはるけきにはみてわらぬ若ぶ　坂上是則
人のみこはうせにけるをすみそめにかへるかえ
年とをにふるかのもりにたてるものをいかにせけり
九条右大臣女
年月を我身ふるとあるまとふかのゆきもふるれ　入道左大臣
天暦御時歌合
ふるとうき表といふたに人をもれねどこゝろ我のみやせし　中納言朝忠
人ぬきにたてるせてゝ紅葉のみこゝろにのこるやあらん　太宰大弐高遠
みこゝろの浦の波のたつめたにはかりはかりかはさふ　謙徳公
唐衣神ゝ人めいつめとこはるゝ物を涙ぬきとは　中務

三

天徳内裏歌合　藤原実方朝臣
つまもなくなりぬる女よ　おなじ　中納言公任
わらぬ玉乃年ふるまてみるよわ我ゝ　中院右大臣
我屋せいうとしてそみめ　藤原実方朝臣
ものをもの思ひのまとわと　密義公
ものをもの思ひのまとわと　中院右大臣
ものをもの思ひのまとわと　藤原実方朝臣
ものをもの思ひのまとわと　藤原家隆朝臣
ものをもの思ひのまとわと　藤原家隆朝臣
ものをもの思ひのまとわと　藤原家隆朝臣

あり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

和歌の神の名合うり久恵恵とりつくことと　摂政参議左大臣

石上布留の山桜ゆゑ我が恋ふるを何か思ふ

小野宮大臣家合うり恵恵のこと　太上天皇

我しのい榛の木祭うりり何か思ふ神の色は出めや

百首の歌合　大僧正義覚

わう恵を杉はたれの深うねてゆくことをうるさく

家うり歌合　摂政参議左大臣

見榊乃ゆゑ思ひやまよりもの春ひわへぬ神とへのうつを

内裏歌合　摂政太政大臣

恋ひわれい神とうり常とつこてもいそやゆとうふへうつ

内裏歌合　太上天皇

恋ひつ今宮うり年のうひやる紀あ春ゆ北の雲

百首歌中うり恵恵と　式子内親王

玉のとよあしれいこねおうへいものうるものよりうまはう

三

三れていうちかけ海ク仏我のこもりてうる月紀

わう恵いもうへ国せく家の源りうとれつものを松

入道太政大臣

百首歌中紀の可恵恵

恵ふうりんのひきいちるけ恵恵いるみこまを

北泉流のこの恵ゆうけうの可さうりてひきうりてひうりの紀

比叡山のうの和ようりのうの恵恵公

清うけ恵と恋うんとけうゆもりの恵紀とうものせんな

ふうりうこうら

西うこの今のきいもうあ恵乃ゆ恵いるへうとみこうゆ家ん

恋ゆ

風ゆけいこうふ波うこ紀ゆうれや我衣ものうく月紀

左兵衛督

波ア乃ゆ紀紀うの衣ふ和ものこうくい我力小ゆけるふ

くすゆ恵と中ようう年うこてなこうりて　三條院女房人左近

沼うこ神うゆ恵けうゆめ家ん乃うう稲とうもむて

六月ゆ日ゆ恵紀うりうけり　式部大夫仕

月ゆ紀ゆ紀ゆ　ゆ家ゆ恵ゆ稲ゆ稲ゆ恵ゆ人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

淀川舟をうくいとわかの浦を漕ぬ人のこゝろあわれ

ゆく　つゝりけり

いふかせんくもらの橋ふるうえよりとゝ果ぬ方とやみるん

吉野の花はみくたせ俤けり

雁うこれこの梅のひろうとゝ志ゝめよんの桜乃秋はゝうぬる

小弁

秋風ゝいとゝ汁う雁はるゝあれ先のやの先ゝうけ

伊勢

函越いわわうれ海の風ゝいてゝ家ふかうゝ波のまゝ

高砂

人ゝつゝうけり

淀さの濁よ蜜れとわつゝり山ふのうゝ下ゝ波ゝ

源重之

あり

わうひまる紀さふゝうゝ白波のゝ浦ゝ秋方ゝうわ

兼之

ゝ川の山下ゝ紀つ男波ゝ人ゝうゝひ

三

五

淀ゝ是則

ゝ方ゝとゝ野の景ゝ乃ゝ紀ゝ

曽禰好忠

牧ゝ夫乃ゝ秋ゝ人ゝ紀ゝ

ゆゝのゝ紀わゝ人ゝ樽ゝ

ゝ桜咲ゝ時ゝ人ゝ

ゝ風ゝ

ゝ

ゝ

清見潟人の心のうらなれの浦の海人の袖の波の上の月

雅藤人の心のうらなれの浦の海人の袖の波の上の月

わすれのうみのあを波よ海人つるさを鹿の涙の袖

相模

袖ぬれて

みるあまの袖の波の上の月

業平朝臣

新古今和歌集卷第十二

羇旅歌二

下ちかたの海ちん煙立ぬれはあまの袖の波の上の月

なひかれわすれぬ人の袖の波の上の月

みるあまの袖の波の上の月

思ふ人の袖の波の上の月

清見潟人の心のうらなれの浦の海人の袖の波の上の月

かくとだにいはんとすれば山もとゆくゑの雲のうらなれて

清見潟なみ立ぬれの浦の海人の袖の波の上の月

恋のこころを

恋しといふこゝろのゆくかたをたれかはしらん
みれとわかぬ恋とはしらしを後徳院

人しれぬ恋よ我身いかにせん
花園左大臣

あはしらす

物をおもふといふこゝろを
無名のこゝろを

人しれぬこゝろをしらぬ物をこそ
和泉式部

さてはあれいはぬ山の物ならん
大納言為家卿

うらもなくこゝろ通はす人の恋そ
二條院讃岐

ありしよりかはるつゝみの涙川
藤原為家卿

人しれぬこゝろ

恋はかはるこゝろ

物をおもふ人のこゝろを神よせくれ
藤原為家卿

教なるこゝろのとゝまらせてこゝろ
藤原為家卿

草の枕の露のこゝろ
藤原為家卿

恋の世界をこゝろ
藤原為家卿

恋のこゝろ
藤原為家卿

ありしあはれ
藤原為家卿

いはぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の身はさてこそあるべけれ　廣業公

世の中にあるべきものとて命だに　武士内家集

なきこそ世にはつらかりけれ　百首歌

なきこそ世にはつらかりけれ　百首歌

なきこそ世にはつらかりけれ　百首歌

伊勢

九月十五夜よ泉式部の家にて月を見て

秋のよ月なかばの月乃入もてよやとゝゝひゝてゝわれ

右宰相敦忠親王

ふるもあるね秋乃のゆさうわみちの宮とて法わへゝ

右伝教大師

をしたゝ衣ゝうゝあまりせけゝ

延喜御宮

ゝゝ乃ゝをゝ法ゝけゝゝれ秋乃のおゝゝその法て法ゝゝけゝ

右長保周子

九月十

秋乃露のおゝゝ宮をゝ、ゝ法ゝ法ゝゝゝゝゝゝゝゝ

右融流れ宮

ゝゝゝ

とゝゝゝゝ露やいゝゝゝ露ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

兼盛公

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

法橋公

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

右宮乃ゝゝれ露を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらしうた

人をこそうたのうまるとなきあらに[illegible]

西行法師

[illegible]

八条院[illegible]

[illegible]

鴨長明

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新古今和歌集巻第十四

恋歌四

中納言俊忠卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今うんとうの先つ物ゝ云れもうとれたみゆるおもしけり　天暦御宇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やへうれおるうとのをの若をうつく野への霧いたと
[illegible]
秋のはぎ清水の[illegible]の[illegible]霧れいのかをへとらのめをん
[illegible]
わさるわとをひしりをとをれるもわいはをもせねそのよはの霧
[illegible]
おれしをいの秋分を霧と消ちしなつ[illegible]
[illegible]
今うんといふことのをうれしのよりかく霧のはのよをうん
[illegible]
わさとの[illegible]の清みれ[illegible]をはとやへのをうん
[illegible]
折をへうくいふ秋をるく[illegible]
[illegible]
萩のをや霧れ[illegible]をうちつをにはやをわうをうふをを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

源のこうそ出るあまの釣舟　文春天皇御歌
花のこうそもたひ源川いまハ釣力のたつむ人まて　阪上是則
おもはぬ神よ湊のさうふり給う舟のこわ計よ　ふうこんこんこん
いまも神とれ月ハ白ぬれ袖ろ〜武蔵てそ袖
あ〜この波の下まよ〜れて志川ふる釣とあるれ
潮よさくを海の猟をひあやまれ風ふてるを
ふるうんとふんのうひまわ〜わ小鶴ふ釣よ
長の流ふ人とふ〜ヒ長れ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ

命とあるふ陸ぬ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ　ふ〜ふ〜
いふ〜よめ〜れるん世中ふ分ぬ世ふ〜ふ〜ふ
今まてよ長ふ人ふ世ふ海ふ年のへぬれ
ぬふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ
山ふ〜ふ世ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ
ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ
沖ふよふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ
ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ

[illegible]

人丸

[illegible]

八代女王

[illegible]

清原深養父

[illegible]

山口女王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

赤染衛門

[illegible]

春の夜の夢ばかりたわむれしたゆたひ絶えしあけぼの

伊勢

[illegible]

感明親王

[illegible]

[illegible]

女院徽子女王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あり　ら　す
いのちくわうう　法眼
法眼　人のみ　社　と
子　宗　者　こ　の　合　イ
義　なわ　う　こ　れ　な　の　こ　み　義　れ　な　う　れ　ひ　よ　む　と　れ　な
あ　り　ら　す
う　れ　屋　わ　し　そ　の　ま　も　と　に　新　あ　と　れ　い　面　新　そ　う
和　京　和　京　合　う　遇　れ　者　悪　の　心　を
義　と　よ　み　し　面　新　も　な　し　も　忘　れ　と　れ　く　う　う　る　ね　い
悪　京　と　て
と　う　れ　く　そ　ち　う　命　を　新　こ　う　新　る　ま　の　う　わ　け　世　う
舟
る　ま　け　る　世　こ　の　な　と　ま　ち　れ　く　い　と　ふ　う　れ　ま　し　と　れ　な
業　法　遍　院　し　言　こ　と　京　な　け　う　河　悪　京
ま　ひ　俺　み　し　面　新　そ　さ　て　こ　れ　く　悪　世　さ　わ　う　ん　新　て　み　し　き
あ　り　ら　す
か　う　れ　わ　む　う　れ　な　か　ま　う　し　よ　む　ひ　ま　ね　神　よ　測　ら　わ　れ　ら　ま
相　模　神

おとこの　こ　ち　く　き　こ　や　と　や　ま　け　ま　ハ　み　あ　う　ま　の　内　伝
昔　ア　ク　ス　ス　ス　ス　の　ち　さ　り　り　ま　ま　て　ち　れ　さ　ち　わ　ま　る　ま　い　ひ　て　ま　ま　い
ま　し　海　道　乃　の　仕　ま　ま　ま　し　ん　る　ま　み　し　人　と　ま　れ　て
手　比　経　行　に　ち　ち　女　の　こ　道　と　こ　ま　ち　ま　ま　ま

[illegible]

[illegible]

今はとも思ひあはせて野中の水の[illegible]

伊勢

思ひ川やみなそこ[illegible]

業平朝臣

出くらべ[illegible]

梅の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]